入善町報

発行所 入善町役場
編集発行 責任者 中田憲政
印刷所 池原印刷所
定価1部5円

# 世論調査はこう語る

## 大・小選挙區の問題

八月二十四日中央公民舘で政治講演会が開かれた。その際、町議選挙は大選挙区制（町を一つの選挙単位として、町全体から良い人を選ぶ方法）と、小選挙区制（町を各地区ごとに幾つかの選挙区にわけて、その地区の人は、その地区の中から良い人を選ぶ方法）とどちらが良いかについて、無作為抽出法によって聴象の意見を調査した。

質問事項
1、大選挙区、小選挙区どちらでもよい
2、小選挙区がよい
3、大選挙区がよい
4、わからない

その結果を集計してみると、大選挙区制支持が断然多かった。

| | 男 | 女 | 総数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 1、どちらでも可 | 9 | 10 | 19 | 15,1 |
| 2、小選挙区制可 | 10 | 18 | 28 | 22.3 |
| 3. 大選挙区制可 | 35 | 25 | 60 | 47,6 |
| 4. わからない | 0 | 18 | 18 | 14,3 |
| 5. 大・小折衷説 | 1 | 0 | 1 | 0.7 |
| 計 | 55 | 71 | 126 | 100 |

**町議選擧の豫定日**

公職選挙法によると「議員の任期満了に因る一般選挙は、その任期が終る日の前三十日以内に行う」と規定してあるので、町選挙管理委員会では町議選挙の日を次のとおり予定している。

選挙予定期日　十月二十七日（日）
選挙期日告示予定日　十月十二日（土）

# 豊年街道を辿る稲作

稲作に重大な影響のある土用の天候が、初期不良、中期良、後期また不良といったぐあいで、豊作に対する期待がたえずゆらでいる。

真夏とは思われない、寒けのする土用明けの日、農林統計事務所入善出張所をおとずれて、調査資料に基いた今年の稲作の豊凶を、道用所長にお聞きした。

▼資料が集りましたか。

△いや、米収予想を立てるまでにはなっていません。九月なかばにはできるでしょう。

今年の稲作は、初期は天候の関係が草丈が短かく、分けつが多かったが中期の成育は順調で、昨年、一昨年と同様な草出来でした。ところが後期の天候が悪く、冷えびえした雨続きで、早く天候が回復しない限り豊作の予想が遠のくだろうと気づかわれます。

▼病虫害の被害程度は？

△〝イモチ発生〟の声とともに薬剤をまいたためか今のところイモチの心配はいらないでしょう。例年より二化螟虫やハムグリバエの被害が目立つようです。

▼倒伏の心配が多分にありましょうね。

△現在のところ茎葉が非常に軟弱です。低目の気温で肥料のききめがおそかったことを感ちがいして追肥をやり過ぎはしなかったかと思います。そんな田んぼは、みのりもしない今頃すでに倒伏しているほどですから、この後の天気が絶好でない限り、倒伏の被害が多いものと察せられます。

▼総合した判断では、豊作ですか、凶作ですか。

△何ともいえませんが、平年作以上になってもろうよう天気の神に祈る外ありません。

ついでに昨年一昨年の実収高をきかせてもらった。（この実収高は、科学的な調査によって割り出された数字である。食糧事務所の実収高は、売渡された石数に保有米二六、〇〇〇石を加え、いくらかの手持米を加味して出した数字なので、両者の間に多少のくいちがいはあることに注意願いたい。

| | ３０年度 | ３１年度 |
|---|---|---|
| 入善 | 10,217石 | 8,996石 |
| 上原 | 12,094 | 10,630 |
| 青木 | 10,059 | 9,035 |
| 飯野 | 17,014 | 14,300 |
| 小摺戸 | 9,744 | 8,437 |
| 新屋 | 16,341 | 13,810 |
| 椚山 | 9,963 | 8,702 |
| 横山 | 8,403 | 7.120 |
| 合計 | 93.835 | 81,030 |
| 売渡米 | 65,061 | 61,011 |

八月二十一日下新川事務所から入善町の水稲作況調査の田廻りをされた技師のお話しも紹介しておこう。

「作柄は、昨年並。他区域に比較して、農薬の使用量が少いにもかかわらず、病虫被害は極めて少い。イモチ病も峠を越したことだから、今後大風被害さえなければ、昨年以上の豊作であろう。

この町は、終戦前は県下最低の反収で有名であったが、流水客土をやるとか、用水の改修や、温床育苗、土壌調査など県下のトップを切って実施したことによって、今は一躍富山にセリ上った。についでの反収力に敬意を表したい。」

一日（日）　二百十日
　関東大震災記念日
八日（日）　仲秋の名月
十一日（水）　二百二十日
十五日（日）　としよりの日
　としより福祉週間
　（二十一日まで）
十八日（水）　第十回県民体育大会（三日間）
二十日（金）　彼岸の入り
　航空記念日
　動物愛護週間
　（二十六日まで）
二十三日（月）　秋分の日
　国土美化運動
　（二十九日まで）

# お祭りいろいろ話

八月二十一日の北日本新聞の論説に「祭りを統一しよう」という題名で、「入善校下公民舘長会や青年団、婦人会が祭りの統一を申し合せた」ことをとりあげ、祭りの統一の必要を説いている。その大要は次の通りである。

1. 村の鎮守は大体昔の部落大字ごとにあった。つまり藩制時代の単位村落を基盤にしていたのだがそういう部落は現在では住民の経済単位としても文化単位としても狭すぎて問題にならない。祭りの統一は、そういう昔の垣根をとりはずそうという意味をもっている。

2. 祭りの日が部落ごとに設けられているということは、住民感情のへだてを残すことになる。

3. 神主の生活擁護の途を講じ、神主によって祭りの統一を妨げられないように……。

祭りは、民族の歴史と結びついた重要な儀式に相違ないが、それに附随して、レクリエーションの意義もまた重視しなければならない。また、親族、知友との交際の機会を作るという意味もあるのであるが、レクリエーションの進んだ時代においては、レクリエーションは、昔の五分の一の意義も持つまい。

時代が変っているのにもかかわらず、今なお昔通りに行うほど、のんびりした時代ではない。

和歌山県のある町では、戸数三二〇戸、人口一、六一二人で、秋祭りに飲む酒は一戸平均二升四合、全体で七石六斗八升（約四十万円）、ご馳走の経費が一戸当り四千円、お小遣や晴着などの費用八千円で、これを合計すると全体で三百万円にもなるそうである。

また、神奈川県のある農村では、お祭りにおまんじゅうを作って祝うそうだが中流以上ではおまんじゅうの皮にする粉は一斗、これを作るのに、主婦は一晩徹夜して、どうにか間に合わせるという話。

以上二つの話しは、時代ばなれしたもので、当地方ではそれほど馬鹿げた事例はない。しかし、時代が進めば祭りのしかたも進んでよいはず。その好事例を次にあげよう。

**お祭り統一で大節約**

一時鳴物入りで騒がれた新生活運動もトンと下火のおりから、秋田市ではいままでばらばらにやっていた夏祭りを全市統一祭典に切替えたため「飲み祭り」が姿を消し、しめて五千万円もの金が浮いたことが同市の新生活運動推進協議会の調べでこのにど明らかになった。

これは、同協議会が音頭とりで五月十四、五両日に夏祭りを行い、市内の殆んど全部の地区が参加したものである。商店などの一部では〝さびし過ぎる〟という声もあったが、ある地区では職場や知人の来客はなく一戸平均二～三千円の節約になったという。

さらに大きな効果は、いままでお祭料理に追われていた主婦が解放され、家族が揃って楽しむ習慣が確立したことなど、勧進元同協議会では大いに気をよくしている。（町村週報より）

# 入善町風土記

## 将監一族と重願寺

……３７回……

竹内慎一郎

水橋将監については色々な説がある。源義経が頼った水橋氏は水橋安芸守で、水橋将監は、その後裔であろうという説（肯構泉達録）、水橋安芸守は、その頃魚津に居を構え、桜井庄を領したという説（喚起泉達録）、水橋将監とは弓庄城主土肥氏の臣山県将監の事ではないか（三州志）という説等。又、正満又七氏（東水橋町小史）によると、「伝説に、水橋将監水橋城に在城し、その重臣に正満、道満（どうまん）の二氏あり。現に今尚正満、道満（尾嶋と改姓）の後裔があるから、水橋将監は架空の人物でない事は明らかである。但し義経時代の人か、戦国時代の人か、三州志の云う如く山県将監が水橋城にいたから水橋将監と称したのかわからない」と書いてある。

水橋町篠田義雄氏によると、「将監舘跡は水橋町某家の背戸にある。畠等四郎右ェ門の子孫と称する家もある。鎧かけの松、義経の通った道と称する道もある」という。

（県紡運動場北側バックネット附近から出土した壺）

稲川将監の子孫代々上田に居住し、甚兵ェと称したという入善宿由来記の真疑を確める為、ヨて調査した所次の資料を得た。

①「甚兵ェどん」は上田と神林境の川ぶち（県道東側）にある。

②同家の周囲には、川を小楯に四十間四方程の「堀」の跡と称する小溝がある。

③祖先伝来の品として義経より拝領したと伝えられる刀劔古代の靴があったが刀劔は某氏に鑑定に出して今手元にない。刀の目くぎに金の蝗の彫物があったと先代故上田広松氏が語られた。（錆びた小刀一本見せてもらった）

④香典帳（幕末頃か）には「米沢甚兵ェ」とあった。

⑤村の伝説に「昔から甚兵ェどんを甚兵ェ川御越という。昔川越役を勤めていた時義経主従を渡したので、義経より刀などを拝領した。義経は之より僧形で奥州へのがれたらしい」と伝えている。

西蓮寺寺坊であったと伝える寺院は吉原光明寺の外重願寺、観音寺がある。重願寺由緒書によると、

真宗大谷派重願寺
由緒沿革

その前身は沓として之を確むるは困難なり。伝え言う、戦国時代当地方にその大伽藍の偉容を誇りし西蓮寺内の一寺院なりしと。上杉氏の兵火に禍され全寺族四方に分散、残務整理に居残りし当寺寺祖、あらん限りの辛酸をなめたりしか如し。たまたま滑川養照寺の寺祖祐玄此地に来りて真宗教義を開演せるにあい、その思想人格共に円熟、以って帰仰するに足るを見るや、即ち門信徒協議の上之に帰投し、改宗して真宗教徒となれり。その後東西分派即ち大谷派第二世門跡宣如上人より寺号を重願寺と賜わり、養照寺の下寺となる。爾後養照寺と運命を共にして代々この寺に住職し累代二十三世を数う。蓋し重願寺前身の祖宗よりの世代ならんか。由緒沿革略して斯の如し

重願寺三十二世住職
二上令従

右由緒書は現住職令従師の筆になるもので、「先祖代々口伝として伝えて来たものに拠った。之に関する古証、文献はない」と令従師は語られた。

## ともしび

貝原益軒の言葉

人の礼法あるは、水に堤防あるがごとし。水に堤防あれば、はんらんの害なく、人に礼法あれば悪事生ぜず。

# 北電と用水使用契約成る

北陸電力株式会社と黒東合口用水組合との間に結ばれていた用水使用契約が、去る五月で期限が切れたので、七月二十六日再契約の調印を行った。

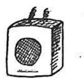
すでにおしらせしたように、従来の契約書は、三十年前に作られたものなので今日とは多少情勢が変っており、契約内容を吟味の上組合側に有利に契約更新をするため、数度の交渉を重ねた結果

1. 契約期限を十ケ年とする
2. 毎年の寄附金は二十三万とする

以上二点を改めた。なお契約期限内に著しく経済状勢の変った場合は、その都度協議の上、これに適合するよう金額を決めることを書き添えてある。

また、冷水害・流砂の問題については、従来の条項にもあることであり、細かいとりきめをせず、適宜解決をはかることとして、円満に話がまとまり、七月二十六日に調印となったのである。

## C地区振興計画成る　新屋に有線放送を



国の新農山漁村建設総合対策要綱に基く本町の農漁村振興計画に従って、本年度はC地区（新屋区・小摺戸両地区）第一次及びA地区第二次の計画実施に当るのであるが、八月三日県及び農林省の認承を受け、いよいよ実施の段階となった。

―国の補助金額の決定はまだなされていない―。

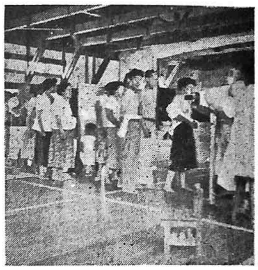
**C地区第一次計画**

- 新屋地区　農事放送施設　二一三万余円
- 新屋　共同育雛所　七四万余円
- 小摺戸　自給養豚共同施設　五三万余円
- 浦山新　生活改善施設　一五万余円
- 小摺戸及び新屋　れんげ飼料化促進施設
- 小摺戸　土地調査施設

**A地区第二次計画**

- 飯野　簡易冷蔵施設　一七五万余円
- 飯野　副業共同養魚施設
- 上原及び青木　共同集荷所
- 上原　土地調査施設

## 結核予防の検診　全町民に実施　受診率八二%



おすなおすなのレントゲン間接撮影場の光景　（上原地区）

結核を無くするため、結核予防法という法律が制定されている。

結核は、早く発見して治療すればなおる病気であるから、レントゲン透射によって、病そうの有り無しを確かめ、治療に手おくれのないようにせねばならない。

この町でも、県公衆衛生課や黒部保健所の技官や機械の総出動を願って大々的に結核駆除に乗り出した。

予定の通り七月二十三日から八月十二日まで、入善地区を手はじめに、レントゲンの間接撮影や血圧測定を行ったが、住民中事故のないものの殆んど全部が受診し、八二%という驚異的な好成績を示した。

これは、全く町民の理解が深いことを物語るものであるが、その蔭には、区長さんや婦人会員の協力もあり、からだの悪いものや老人などをリヤカーや荷車に乗せて孫たちや嫁ハンが運んだという美談佳話がいくつもあった。また、受診車で送り迎えするなどのサービスもあずかって力あるものであった。

（該当者一〇、三〇五）

◇受診状況

| | | % |
|---|---|---|
| 入善 | 一、六一九 | 八二 |
| 上原 | 一、一五九 | 八二 |
| 青木 | 八二二 | 八三 |
| 飯野 | 一、六七六 | 八二 |
| 小摺戸 | 七三四 | 八〇 |
| 新屋 | 九五九 | 七四 |
| 椚山 | 六八九 | 八四 |
| 横山 | 七四九 | 八八 |
| 計 | 八、四〇七 | 八二 |

間接撮影で疑いのあるものについては、改めてレントゲン写真をとってもらうのであるが、間接撮影の結果はかたく秘密が守られ、他人にいやな思いをいだかせることの無いよう注意が払われている。

## ルスの間に晴着をゴッソリ

今年の六月十九日午前十時頃、入善町新屋農業Kさん方へ、家人が全部田圃へ出ておられる留守の間にドロボウが入り、全家のお嫁さんの晴着十四点をゴッソリ盗まれた事件がありました。家人が昼飯に田圃から家に帰って始めて発見したのですが、あまりのことに警察へ届けるのも忘れて、ガッカリしておられるのを近所の人が見るに見かねて警察へ案内したというわけです。丁度その頃警察の方で怪しい着物をもっていた舟見生れの魚津某について捜査していたので、その着物がKさん方のものであることが判り、その日の中に逮捕したので、品物も全部Kさんにかえり大喜び……。

このように猫の手もかりたい農家のみなさんの留守を狙っているのがアキス・ドロボウです。こんなドロボウにかからないため、次のことを実行して下さい。

①家には、出来るだけ老人や子供でもよいから留守番をおくように致しましょう。

②どうしても留守番をおけないときは、隣り近所で共同の見廻り留守番をおくように致しましょう。

子供さんの巡回班を作ることも一方法です。

③時折田圃から上って家を見廻りましょう。

④家には現金を多くおかないようにし、おく場合はタンス等でなくわからないところに分散しておきましょう。

⑤見なれぬ怪しい人を見たら人相、持物、行先等をよく注意して見ておいて下さい。被害のあったときのためになります。

もしドロボウに入られたら現場をそのままにしてすぐ駐在所へ届けて下さい。届出が早ければ早い程品物が手許に返る望みがあるからです。

（入警）

## 竹島君ブラジルへ

ブラジルが招いている農業従事者の単独雇傭の募集があったが、これに応募した入善町笹原九七三番地竹島作栄氏三男　正幸君(19)は、このほど行われた選衡審査に合格した。この合格者が県下で六人であったがこれらの人たちは、八月二十一日一たん富山に集結の上、八月末ブラジル丸で日本を立った。

雇傭先は、ブラジルのコチヤ産業組合であるが、二三男坊の働き場所の開発者として注目されており、同君の健康と成功を祈ってやまない。

## 國土建設郵便貯金増強運動始まる　九・一～一二・三一

財政投融資の重要な財源である資金運用部資金は、今年四月末で一兆二、三〇〇億円というぼう大な額になり、その約六〇%に当る六千五百億が郵便貯金の資金によって占められています。この資金は、いろいろな機関を通じて融資され、国民生活の安定や福利の増進のために役立っています。

まず国民生活といちばんつながりの深い都道府県や市町村に貸し出され、学校病院あるいは道路、橋、上、下水道などの建設に使われており、また住宅金融公庫や日本住宅公団をとおして住宅難の解消に役立ったり、中小企業金融公庫や国民金融公庫をとおして、中小企業の事業資金を供給しています。

また農村や漁村方面には、農林漁業金融公庫をとおして、農作業の機械化や、漁船漁具などの購入に役立っています。さらに興業債券、長期信用債券を引き受けたり、開発銀行をとおして電力、石炭、鉄鋼、海運など、日本経済の土台となる産業を振興するのに役立っています。

郵便貯金をすることは、われわれ自身の生活を豊かにするばかりでなく、わが国土の建設と経済繁栄に大きな役割を果すことになります。

郵政省では、皆さん方の御理解を深めて貯金の増強を図るため、九月一日から十二月末まで国土建設郵便貯金増強運動を展開することになっております。

この運動は、全国民的な規模のもとに展開されますのですから、皆さんの絶大なる御協力をお願いします。

（入善郵便局長）

## 入善図書館新着案内

| 書名 | 著者名 |
|---|---|
| アイデアを仕事に活用する法 | 藤井良 |
| 進歩的文化人 | 金貌編集部 |
| 昭和時代 | 中島健蔵 |
| 文部省 | 文部記者会 |
| 法務省 | 司法記者団 |
| 大蔵省 | 大蔵省記者団 |
| 僕の日本拝見 | 大宅壮一 |
| オートメーション | 中山秀太郎 |
| 中東の石油 | 脇村義太郎 |
| 町づくり村づくり | 浪江虔 |
| スキャンダル | 岡倉古志郎 |
| 黄色い部屋 | 吉浦亀雄 |
| 児童読物に関する一〇〇の質問 | 坪田譲治 |
| 農村の恋愛と結婚 | 浪江虔 |
| 青年運動と村づくり | 松丸志摩三 |
| 日本の青年 | 日本青年団協 |

| 著名 | 著者名 |
|---|---|
| 投資信託の実際 | 沢村正鹿 |
| やさしい育児問答 | 高谷淳 |
| 百姓の書いたブラジル | |
| 動物記 | 神屋信一 |
| 動物と人間 | 林寿郎 |
| 農事研究と青年運動 | 堀越々浦 |
| 人間詩話 | 吉川幸次郎 |
| 父の秘密 | 吉野信子 |
| 浮草 | 川崎長太郎 |
| 純な女 | 枝見静人 |
| 農村演劇 | 村山知義 |
| 農村演劇脚本集2 | 〃 |
| 残された奥さん | 神戸照子 |
| 小説家 | 荒正人 |
| 生きるため | 阿部知二 |
| 町会議員一年生 | 杉浦明平 |
| 黒の魅惑 | 藤島泰輔 |
| 獣医のくるまで | 平井次郎 |
| 飼料作物 | 山田豊一 |
| これで防げる果樹の病気 | 山田畯一 |
| 新しい農薬の使い方 | 石井象二郎 |
| 野菜つくりの技術と経営 | 松原茂樹 |
| 野菜の営利栽培十二ケ月 | 岩間誠造 |

## 発展を予約される北陸

# 北陸線が生れかわる【一】

入善駅長　橋本憲雄

いつ頃から誰が云ったか知らないが、大平洋側を表日本といい、日本海側を裏日本という。日本海人にはあまりありがたくない呼び方である。その日蔭ものの日本海側の国鉄線も、敗戦後輸送の行きづまりから関心がもたれ、大写しされて来た。

北陸線は、北海道と関西との最短線であって、いわゆる裏縦貫線の一部である。一部というからには他にまだあることになる。すなわち青森に向って順にいえば、信越線、羽越線、奥羽線である。これらは別々の目的で建設された寄せ集めであって、線路はつながっていても大量の列車が一貫として直通運転できるようにはなっていない。

◇輸送強化の運動

今やその区間内にある諸県、特に富山市を中心とする近代工業の異常にふくれ上った輸送要請には、もはや現有施設では処置なしといった現状である。そこで沿線関係諸団体が動き出し「北陸線輸送強化連盟」や「日本海岸国鉄強化促進協議会」を結成して、中央に向って強力に仂きかけるようになった。北海道その他もこれに呼応して、国鉄の五ケ年計画の具体化の実現に猛運動が展開されるに至った。

今年は、わが国に鉄道が開通してから八十五年になるのであるが、どうも国鉄は、家柄が古いだけで、こんなめまぐるしく変遷する時代に即応する手を打たないで、旧態依然としているものだから、他人様に支え柱となってもらわなくてはならないのであろう。

◇輸送力の現状

昭和十一年と比較すると旅客が四倍、貨物が二倍に増加しているというのに、国鉄の台所を見ると、蒸氣機関車四、七八四両のうち半分以上は三十年もたった古もので、残りの半分も戦争中に造ったものが大半であと十五年ももてばよいところだという心細さ。その機関車も蒸気、電気、デーゼル合せて五、四一三両で昭和十一年の二割増というから、客貨の増加について行っていない有様である。「輸送は産業の基幹」であるのに、輸送に弾力性がないということは、産業や経済活動の伸張を阻害していることになる。いわば中風になっているのである。

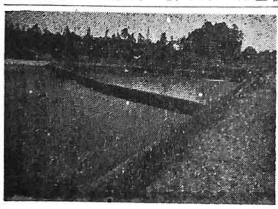
◇電化いたしかゆし

国鉄の電化がさけばれる理由の一つに、この機関車の問題がある。つまり、この古鉄みたいな機関車の補充に、いっそう電化して電気機関車に切り替えていこうという考え方である。一方地上設備の方も、戦争中酷使して荒廃したまま少しも手当もせず、逐増する客貨の輸送に応じきれなくなっている。これも電化複線化することによって打開しようというのであるが、算用が合ってゼニ足らずで、なかなか実現しがたい。

◇電化によるプラス

石炭を機関車に焚いて動力化する熱効率は五%で、あとの九五%はムダになってしまう。同じ石炭でも火力発電所に使うと、三〇%が力になるということである。このように蒸気機関車は、お話にならぬほど石炭を不経済に使うので、国鉄の電化が計画されている。その目標は、主要幹線三千キロメートルで、昭和四十年度に完成の予定である。電化するために地上設備、電気機関車の建造、トンネルの拡張（トンネルも大体寿命が来ている）などの費用合せて一、八二一億円である。これに対し、節約する石炭は二六四万トン（一六三億円）電力費五二億円、差引一一一億円が浮く計算であるが、実際には保守費七億円があるので、年間九五億円の節約になるのである。また、二六四万トンの石炭を火力発電に向けると五〇億KWHの発電ができ、その四分の一の電力で国鉄が動き、残り四分の三は他産業へ廻せるわけで、日本の経済に大変なプラスになるのである。（未完）

（橋本氏）



―温水溜池完成―

飯野（広さ 1,800坪 灌漑面積 30町歩）及び小摺戸（広さ 1,500坪 灌漑面積 20町歩）の温水溜池が完成した。

（写真は　小摺戸温水溜池）

## あとがき

米の収穫予想など、この町報の出る頃はもう時期おくれの感がありますが、将来の参考記録のつもりで載せました。町報の保存をおすすめします。　―中田―